



貧困なくし、戦争する国づくり許さず

安心してくらせるまちに

稲沢市議会議員

曾 我 部 ひ ろ た か
そがべ 博隆 60歳

稲沢市祖父江町本甲神明前75-23

☎ 0587-97-6105 FAX 97-6189 携帯 090-4234-5756

稲沢民報

発行 日本共産党稲沢市委員会 ☎0587-23-7751 (FAX 23-7753)

日本共産党稲沢市委員会の活動と見解を紹介します。2015年6-9月

1. くらし、子育て、障がい者も安心してくらせるまちづくり

● 高校卒業まで医療費を無料にします。

● 保育料の引き下げ、延長保育料を廃止します。



● ひとりの暮らし、高齢者世帯の配食サービス等を充実します。

● 特別養護老人ホームの増設など、介護施設を充実します。

● 国民健康保険税・介護保険料を引き下げます。

2. 学校を存続し、豊かな教育を

● 学校はまちづくりの核であり、すべての学校を存続します。

● 老朽校舎を計画的に新築・改修し、教室にエアコンを設置します。

● 少人数学級を推進します。

● 学校給食の自校方式を堅持します。

3. 災害に強く、地域に根ざした産業を

● 中小零細業者の仕事づくり、雇用創出する住宅リフォームや再生可能エネルギーに補助します。

● 防災の拠点として祖父江・平和支所を存続します。

4. 憲法9条を守り、平和行政をすすめます。

そがべ博隆の略歴

◆ 1954 (S29) 年9月26日 愛媛県周桑郡小松町石鎚に生まれる (合併して西条市)。石鎚小学校、同中学校、愛媛県立西条高校を卒業。

◆ 1973 (S48) 年4月 大阪府立大学工学部機械学科に入学。大学卒業後、祖父江町にあるアイコク工業(株)に入社 (現在のアイコクアルファ)。

◆ 1988 (S63) 年2月 祖父江町会議員選挙に立候補し当選。2007 (H19) 年合併で稲沢市議会議員に。現在7期目。

そがべ博隆のプロフィール

子ども心に「貧乏のない社会に」

愛媛県小松町石鎚（現在は合併して西条市）の山奥で生まれました。わたしの家庭は貧しく、親の代わりに借金にいったことも。「なぜ貧乏なのか」―貧乏のない社会にしたいという思いを強くもったことをいまでも覚えています。

学生時代―寮生活の改善求め、

20歳で日本共産党に

高校卒業後、両親に無理をいって大学に行かせてもらい、寮に入りました。寮生の多くは、家計が苦しく、アルバイトに精を出し、食事を切り詰めての生活でした。わたしは寮自治会の役員になり、待遇改善を求め、大学当局と交渉をよく行いました。



大学の寮で

日本共産党を知ったのはこのころです。わたしのいつていた大学は大阪府立大学で、大阪府は革新府政でした。当時、国立大学は授業料を連続的に値上げしました。私たち寮生は革新府政を守り、「授業料の値上げストップ・暮らしを守ろう」と運動し、授業料の値上げを食い止めました。暮らしと政治を身近に感じ、政治を強く意識した瞬間でした。

また読書好きだったわたしは、偶然日本共産党員作家の小林多喜二の本に接し、命をかけて労働者の暮らしを守ろうと活動してきた日本共産党の戦前からの歴史を知り、20歳で入党しました。

小さな声も取り上げ

大学卒業後、祖父江町に本社のあるアイコク工業（株）（現在のアイコクアルファ）に入社。当時の祖父江町は、道路舗装をしてもらうには、工事費の3割を個人が負担する地元負担がありました。地元負担を出せず、村八分になっていた家庭がありました。「道路の舗装で村八分」

尿病だが、お金がないので病院へ行けない」「派遣で働いていた。会社を首になり、生活できない」「会社訪問を何十社も行ったが、採用されない」…、高齢者も青年も使い捨てにされています。

「健康で文化的な最低限度の生活」をうたう憲法をくらしに生かす―いま政治の責任が問われています。

安倍政権は、憲法9条を壊して、戦争する国にしようとしています。日本共産党は党をつくって93年、命をかけて戦争に反対してきました。この党の一員として、戦争する国にしないために全力をあげます。

安倍政権・大野市政の暴走ストップ、市民のくらしを守るために全力をあげます。



「原発なくせ」のパレード
（左が本人）

―これはおかしいと、1988年に町議会議員に挑戦。2人の党議員団になり、議会でも何度も取り上げ、地元負担をなくすことができました。また初めて立候補したとき、中学生から「祖父江にも図書館をつくってほしい」と声が寄せられ、議員としての初質問が「図書館をつくれ」でした。みなさんから多くの署名をいただき、議会でも何度もとりあげ、96年に念願の図書館が誕生。現在の祖父江の森図書館です。



祖父江町内のスーパーで訴える本人

戦争する国づくり許さず

人として尊重される社会を

世界で3番目の経済力を持つ日本なのに、いまでも貧困が弱者に襲いかかっています。「糖